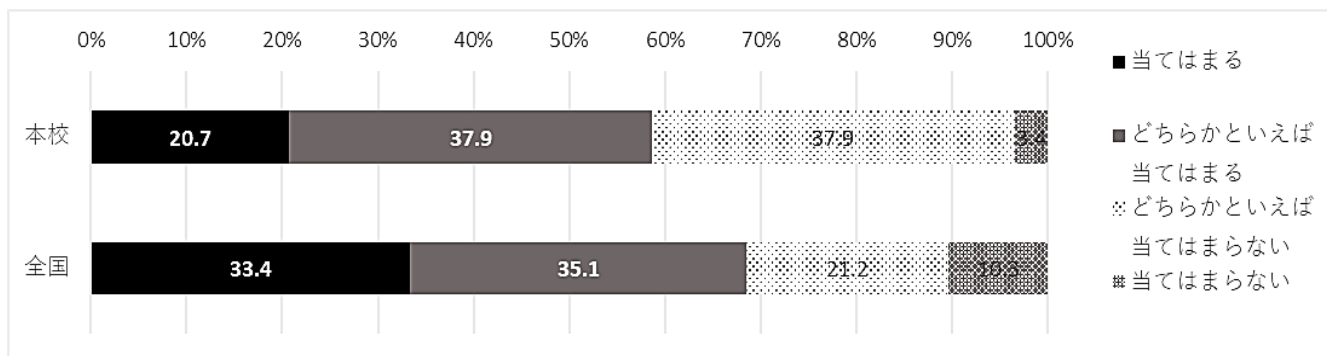




## 大人も「相談ができるのは能力の一つ」

～大人も子どもも幸せな学校 心理的安全性の高い学校づくりをめざして～

「笑顔」第6号で、子ども達が自分から相談したり、自分の気持ちを話したりできるような学校づくりを進めたいと述べました。下記のグラフは、4月に6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の児童質問紙において、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という問いに答えた結果です。国と比べて、肯定的な回答の割合が低くなっていることが分かります。



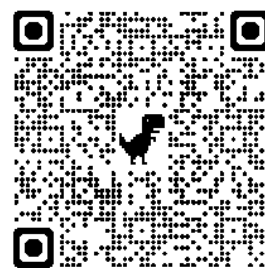
このような状況もあり、また国からの要請もあり、9月より毎日子ども達は、一人一台タブレットを使って、「心の天気」アンケートを実施しています。私自身、毎朝、立哨をしてあいさつを子ども達と交わしながら、そしてこの「心の天気」アンケートを見ながら、『一人一人の子ども達にとって今日も学校が楽しいところでありますように。』と願い、朝から表情の暗い子



や、「今日の天気は‘かみなり’‘雨’。」と答えている子ども達の様子は、それとなく見守り、声をかけたりしています。「誰かに相談したいことがある。」と答えた子には、学級担任をはじめ支援員や養護教諭がすぐに対応するようにしています。

「子ども達」のことで「相談ができるのは能力の一つ」とお伝えしてきましたが、私自身は、大人も子どもも幸せな学校づくりのためには、「大人」も「相談ができるのは能力の一つ」という考え方が必要だと感じています。教職員の間でも、互いに相談ができるよう、心を開き合う関係になることが、心理的安全性の高い職場づくりにつながると考えていますし、保護者の方々とは共に子どもの困り感に寄り添って、どのように対応すればよいのかを話し合うというスタンスを大事にしたいと考えています。そのためもあって、スマホ等による「欠席・遅刻連絡フォーム」を稼働することとしました。

ミッターメールでお知らせしたURLにアクセスするか、右記のQRコードを読み取っていただければ、昭和小学校の「欠席・遅刻連絡フォーム」につながります。該当するものにチェックをして入力していけば、いつでも連絡を受け付けることができますので、どうぞ御活用ください。なお、今まで通り電話での御連絡でも構いません。欠席・遅刻について、電話か連絡フォームのどちらからで当日8時までに御連絡をよろしくお願いいたします。また、相談事のある方は、児童の連絡帳を通じなくても、この「欠席・遅刻連絡フォーム」の中に「相談」の受付がありますので、御活用ください。担任より、後で御連絡をさせていただきます。



## 9月22日（金）に6年生と広島平和学習に行ってきました。

子ども達は、この日までに「平和」「原爆」「戦争」等について学び、それぞれの課題意識をもって広島平和記念資料館を見学したり、語りべさんからお話をお聞きしたり、千羽鶴を奉納して「平和への誓い」を誓ったりしました。下記に、子ども達が述べた「平和への誓い」を掲載します。

わたしたちは、ぜったいに戦争をしません、ゆるしません。

だれもが、幸せを感じることが出来る平和の実現のため、今日の学びをこれからの生活に生かしていきます。

平和な世界の実現のため、わたしたちは暴力や暴言など、人を傷つけることをしたり、差別をしたりしません。

互いのよさやちがいを認め合います。

日本に原子爆弾が落とされたという事実をけっして忘れず、被爆された方の思いを自分事としてしっかり受け止めます。

そして、その思い、学んだことや感じたことを周りの人や次の世代の人たちにも伝え続けます。

おいしいご飯を食べ、勉強や運動をし、大切な友だちや家族と一緒に過ごせている毎日に感謝し、今自分がすべきことを一生懸命します。

そして、被爆された方々の分まで、一日一日を大切に生きていきます。

平和な世界を実現するために、わたしたちは自分も周りも大切に、一人一人考えて行動することを誓います。

いかがですか。とっても立派な「誓い」でしょう。

御自分の命を削るような想いで体験を語ってくれた語りべの迫田さんは、子ども達の言ったこの「誓い」を、拍手をして聞いてくださいました。この「誓い」のすべてに、私が子ども達にこうであって欲しいという願いが表れています。他の学年のみなさんにも、読んで欲しくて、ふりがなをつけ、学校だよりで紹介させてもらいました。私自身は、「なぜ勉強するのですか。」と子ども達に問われたら、「相手の言うことを正しく理解して、自分の考えを正しく言葉で伝え、良好な人間関係を人と築く力を身に付けるため。」「戦争は、国と国のけんか。もめごとが起こったら、武力ではなく話し合いで解決できる力を身に付けることが、平和な世界の実現には必要。」「平和な世界をつくるために、まず自分の身の周りの世界の中で、正しく伝えあう言葉の力や互いの違いを認め合う態度を身に付ける人間になって欲しい。」と言っています。

折しも、先日開かれた学校保健委員会では、学校薬剤師の平松良基さんが、「みんなはこれからどんな人間になりたいですか？」という問いかけとともに、ネット・ゲーム依存を防ぐ取組について、お話をしてくださいました。最近、学校教育の中で「非認知スキル」というやり抜く力・自制心・自尊心・勤勉性・意欲・積極性・協調性・社交性・思いやりなど数値では測ることのできない自己実現の原動力となる能力の育成の重要性が取り上げられるようになりましたが、私は、ネット・ゲーム依存の問題も、まずは「自分がどんな人になりたいのか」「どう生きたいのか」と問い、生まれてこれたことに感謝して、毎日を一生懸命に生きることができれば解決すると考えています。そんな日々の中で、自己肯定感は育ち、自分も周りも大切に、幸せに生きることが出来るからです。

子どもも大人も幸せな学校づくりを、高い志をもって、子ども達を中心に、教職員一同、保護者の方々、地域の方々とともに、協力して進めていきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

